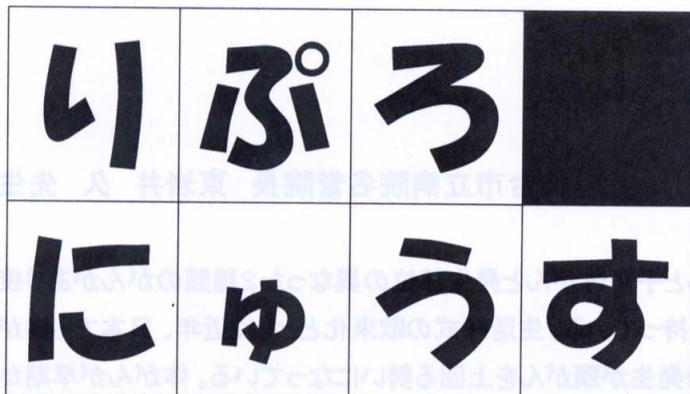


編集・発行

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-2-3
 仙台MTビル 2F 村口きよ女性クリニック
 リプロネットみやぎ事務局

CONTENTS

- 2009 年度通常総会開催報告
- 会員研修会(一般公開)開催報告
- 研修会内容 子宮がん-最近の話題-



2009年度通常総会を開催しました

2009年6月4日(木)エル・パーク仙台・スタジオホールにて開催。出席者23人、委任状8人で会員総数の過半数を超え、総会開催が成立しました。主な決議事項は以下のとおりです。



■新たな事業活動を予定しています

○従来の活動に加え、本年度は「みやぎの男性 からだと性のホンネ」をテーマにアンケート調査報告を行います。今年2月開催の「リプロネットみやぎ創立 10 周年記念フォーラム」で報告した「みやぎの女性 からだと性のホンネ! 100 人に聞きました」の追加調査となります。性のもう一方の当事者である男性の意識調査・報告については、フォーラム終了後多数の要望が寄せられました。

○関係団体から協力要請を受け、「若者のための市民活動体験」への協力と「男女共同参画推進せんだいフォーラム」への参加を予定しています。

■新年度役員が決まりました

10 年間代表を務めていただいた長池博子代表の辞意に伴い、村口喜代副代表が新代表に就任。長池氏は出席会員からの強い要請により顧問就任となりました。

総会開催にあたって、長池代表から次のような挨拶がありました。「多くの方々に支えられて、リプロの活動も10 年を数えました。記念フォーラムも盛会のうちに終え、これまでの活動も記念誌としてまとめることができました。これからの 10 年を引き継いでくれる方々にも恵まれ、感謝の思いでいっぱいです。これからのリプロの活動がますます発展する事を期待しています」。

新しい体制のスタートにあたり、新役員を代表して、村口新代表は「試行錯誤しながら、自分たちにできることを進めていきたいと思えます。共に活動し、共に考えていくリプロネットみやぎにしていけるために、会員をはじめ、多くのおみなさまの協力をお願いしたい」と語りました。(報告:事務局 村上)

リプロネットみやぎ会員研修会(一般公開)報告

2009年度通常総会終了後、会員研修会(一般公開)を開催いたしました。今年は東岩井久先生を講師にお迎えして「子宮がん」をテーマに、若者の子宮頸がんが増加している背景やヒトパピローマウイルス(HPV)との深い関係、子宮体がんとの違いや検診の重要性など、専門的な知識を分かりやすく解説していただきました。次頁に抄録を掲載いたします。

子宮がん —最近の話題—

仙台市立病院名誉院長 東岩井 久 先生



子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんと発生部位の異なった2種類のがんがあり疫学的にも全く異なった特徴を持っている。生活様式の欧米化とともに近年、日本でも体がんの増加が著しく、体がんの発生が頸がんを上回る勢いになっている。体がんが早期から不正出血という症状を呈するのに対し、頸がんの接触出血という症状はがんが進行しないと発生しない。無症状の早期頸がんを発見するための有力な手段が細胞診で、細胞診でがんが疑われた人はコルポスコプで子宮頸部を拡大観察し、疑わしい部位の組織診断を行ってがんと決定する。

宮城県では、昭和 37 年から全国に先駆けて子宮頸がんの集団検診が行われ、検診数が増加するとともに平成6年には子宮がん死亡率が人口 10 万対 4.0 と全国で最低となる実績を上げている。子宮がん検診に対する補助金が一般財源化されるとともに、子宮がん検診の受診率は低下し、子宮がん死亡率は再び上昇傾向にあることは全国的傾向であり、宮城県でも例外ではない。

1983 年、ドイツのツール・ハウゼンが子宮頸がんの組織の中にヒトパピローマウイルス(HPV16 型)の遺伝子が組み込まれていることを報告して以来、HPVと子宮頸がんの関係が注目され、ハイリスクHPVの持続感染が子宮頸がんの発生原因であることが解明され、2008 年、ツール・ハウゼンはノーベル生理学賞を受賞している。100 種類ほどあるHPVの中、子宮頸がんの発生と関係があるものは、15 種類内外(ハイリスクHPV)で、16 型と 18 型がもっとも頸がんを発生しやすいことがわかり、この 2 つの型の予防ワクチンが開発され、欧米ではすでに実用化され、12 歳を中心とする若年の人に公費で接種されている。HPVと子宮頸がんの関係が明らかになるにつれ、日本でも子宮がん検診で使われてきた細胞診の日母分類からHPVの感染を取り入れたベセスダ分類を採用することが産婦人科医科で決められ、宮城県では本年度より全国に先駆けこの分類に基づく診断を開始している。ハイリスクHPVのスクリーニング検査が保険適用になれば、これを加味した子宮がん検診の方式に改められていくものと思われる。

近年、子宮頸がんの発生が若年化し、20 代の子宮頸がんが増加している。子宮がん検診の公費負担が 20 代からに改められても、この年齢の受診率は極めて低い。日本でも、HPVワクチンが公費負担で実施され、子宮がんは治るのではなく、予防できるというのが常識となるよう努力を重ねたい。



編集後記

本年度より、リプロネットみやぎは村口喜代氏が代表を務めることとなりました。これまでの活動の成果をもとに、さらなる前進を願い頑張っていきたいと思っております。

今後ともリプロネットみやぎを、よろしくお願いたします。

(事務局)